

1 単元名 地域探究「まちについて知る・つながる・発信する」

2 単元の目標

- 地域の現状や課題、資源について多面的・多角的に理解し、地域社会を構成する人々や組織の役割を把握することができる。 (知識・理解)
- 調査やフィールドワーク等を通して得た情報を分析し、地域課題の背景や要因を論理的に考察した上で、解決策や新たな価値創造の方向性を自ら見だし、適切に表現することができる。 (思考・判断・表現)
- 地域の一員として課題解決や魅力発信に主体的に関わろうとする態度を養い、協働を通して粘り強く探究を進める姿勢を身に付ける。地域の人々・自治体・企業などと連携しながら活動を進め、地域社会に働きかける探究的な実践を遂行することができる。 (主体的に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元における教材は、教科書的な知識や資料に限定されるものではなく、学校が位置する「地域」そのものを教材と捉える。地域社会には、自然環境、歴史・文化、産業、地域住民の営み、行政の施策など、多様な学習資源が存在している。地域を教材とすることで、情報収集・分析の技能やコミュニケーション力だけでなく、自ら気づき、問いを立て、協働して地域課題の解決に向かう探究的な姿勢が育まれる。また、学習内容が生徒の生活や将来と直接つながるため、生徒の主体性や社会参画の意識を高め、更には将来の生き方について考えるきっかけとなる。

(2) 生徒観

本単元の対象は、普通科地域探究コースに所属する2年生34名である。菊池市内だけでなく、大津町・合志市・山鹿市など、広域から通学している生徒が多いため、菊池地域に対する知識や理解は十分ではなく、地域の魅力や課題を実感をもって把握できていない生徒が多い。1年次には個人研究として、自分の興味・関心に基づくテーマで探究活動を行ったため、探究の基本的なプロセス（課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現）については一定の理解と経験を有している。しかし、地域を題材として課題を見いだしたり、地域の大人と関わったりする経験は少なく、「地域」という具体的・実社会的な対象を用いて探究を深めるスキルや視点はまだ十分に身に付いていない。そのため、本単元では地域に踏み込んで学ぶ意義を理解させ、フィールドワークや対話を通して、地域を多面的に捉える力や学校外の大人と協働的に探究を進める態度の育成が求められる。

(3) 指導観

本単元の指導においては、まず御所通りの散策や菊池神社の訪問を行い、社務所の方から直接お話を伺うことに加え、菊池市による出前講座の実施や、実際に現地を歩いて見聞きする体験を大切にす。こうした活動を通して、身近な地域についての理解を深めるとともに、地域の魅力や課題に気づく契機とする。

その後、収集した情報や体験を基に、「福祉」「まち」「観光」「農業」の4分野に分かれてテーマや仮説を設定し、研究計画の立案・調査・分析を行う。最終的には考察・まとめ・発表までの一連の探究活動を通して、生徒の主体的な学びと地域への関心を育成し、人間性を高めることを目指す。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

連携性：地域の問題を解決するためには、様々な人と連携することが必要である。

責任性：地域をより良くしていくためには人任せではなく、自分自身が積極的に行動する必要がある。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

コミュニケーション力：幅広い年齢層の人たちに意見を聞いたり、発信したりできる。

協働的問題解決力：問題解決に向けて周囲と協力して最後まで取り組むことができる。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正を重要視できる：歴史が深くこれまで大切にされてきた地域を今後もより良くしていきたい。

・達成が期待される SDGs

1 1 住み続けられる街づくりを

4 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
①地域の現状・課題・資源について、資料やフィールドワークを通して得た情報を整理し、多面的・多角的に理解している。	①収集した情報の因果関係や背景を踏まえて地域課題の本質を考察し、妥当性のある結論や方向性を導いている。	①探究テーマに対して強い関心を持ち、自ら課題や必要な学習を見出して意欲的に取り組んでいる。
②目的に応じて適切な調査方法（文献調査、インタビュー、アンケート、観察等）を選択し、必要な情報を正確に収集している。	②地域の実情を踏まえながら、課題解決や価値創造につながる独自のアイデアや改善策を構想している。	②他者の意見を尊重し、役割分担や話し合いを通して協働的に探究を進めようとしている。
③収集した情報を分類・整理し、図表・メモ・レポート等を用いて分かりやすくまとめている。	③探究の過程や考察を発表・レポート等で論理的かつ分かりやすく説明し、根拠を明確に示している。	③課題や失敗を振り返りながら、より良い探究のために計画や方法を柔軟に修正し、粘り強く取り組んでいる。

5 単元の指導計画（全40時間）

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
1 地域理解	<p>○菊池神社に行き、神社の方に話を聞く。更には歴史資料館に行き、菊池の歴史についての理解を深める。</p> <p>○御所通りを散策し、御所通りの良い面・改善点を考える。</p> <p>○菊池市役所の方に出前講座を実施していただき、菊池市の現状について理解する。</p>	ア①
2 テーマ・仮説決め	<p>○地域の現状で「良い面」「改善点」を挙げ、分野毎にグルーピング（福祉・まち・観光・農業）し、自分の興味のある分野を選択する。</p> <p>○分野毎に先輩達の研究を参考にしながら研究する。</p> <p>○観光分野：松囃子のAR・VR化 まち分野：川開きイベントの企画・実施 福祉：子育て世代のニーズを把握し、地域の支援策の改善につなげる 農業：菊池の農業をPR</p>	イ②
3 研究計画を立てる	<p>○観光分野：御松囃子御能保存会の会長から話をいただき、松囃子についての理解を深める。</p> <p>AR・VRについて大学の出前講義を受講する。</p> <p>まち分野：川開きイベントで「水遊び」の企画を行う。開催場所の視察を行う。</p> <p>福祉分野：子育て世代にアンケートを行う。</p> <p>農業：菊池市役所や観光物産館の方に話を伺い、菊池の農業についての理解を深める。</p>	ア②
4 中間発表	<p>○中間発表会では、研究テーマ・仮説・研究方法の発表を行い、教師や他の班から助言をもらう。</p>	イ③
5 検証	<p>○中間発表を踏まえてそれぞれ研究を行う。</p>	ア② ウ① ウ②
6 まとめ	<p>○テーマ・仮説の設定から結果・考察までをポスターやスライドにまとめる。</p>	イ③
7 発表 校内成果発表会 KSH 学びの祭典	<p>○校内発表会やKSH 学びの祭典ではポスター発表やスライド発表を行う。発表のスキル向上や研究内容に関する助言をいただく。</p>	ア③ イ①
8 今後の計画	<p>○発表会を踏まえて今後の計画を立てる。</p>	ウ③